

JR連合 第14回政策シンポジウムを開催



挨拶するJR連合荻山会長

10月3日、京都市内において開催され、辻村本部委員長・貨物連合より5名、計6名が参加しました。『JR産業の将来に影響を及ぼす厳しい雇用情勢の中で、人財の定着・確保を図るために～社会変容に適切に対応し、意欲高く働き続けられる環境を創出しよう～』をテーマに四部構成で進められ、第一部の基調講演では、『雇用情勢の変化への対応と労働組合の役割』について、立教大学経済学部教授首藤若菜氏が登壇し、「労働組合は、今、どのような職場を作っていきたいと考えているのか？雇用情勢の変化を受けてどうしたらいいのか、とともに、労働組合は職場を・産業を・社会をどう変えていきたいのか？社会を変えていく主体として、自らを位置づけているのか？を考えてほしい」と強く提起しました。

第二部では、各単組(JR九州労組・JR西労組・NESCO労組)より取組報告があり、第三部のパネルディスカッションでは、「多様化する組合員の価値観とニーズへの対応」「多様な人財な活躍にむけた諸制度・就労環境の創出」「離職率の高まり・労働力移動にどうむきか」を討議し、第四部では、JR連合宮野局長より、これまでの取り組み報告と、今後の具体的な方向性と課題認識を提起し閉会となりました。

今シンポジウムにおいて、多くの問題提起をされましたが、将来にわたり安心して意欲高く働き続けられる魅力と活力のあるJR貨物を構築するよう、JR連合と共に貨物鉄産労は取り組んでいきます。



首藤教授



パネルディスカッション



JR連合宮野局長